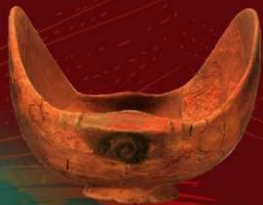


令和4年度特別展

遺物から見える 地域文化の発達

縄文時代前期後葉～末葉



遺物から見える地域文化の発達 — 縄文時代前期後葉～末葉 —

ごあいさつ

今回の展示は、主に縄文時代前期後葉^{じょうもんじだいきぜんごうよう}～末葉^{まつよう}の土器を取り上げました。

今から約 6000 年前の縄文時代前期後葉は現在より気温が2℃ほど高く、海水面が上昇し、貝塚が増加した時期にあたります。それまでとは集落のあり方が変わり、集落の中央に墓域^{かみじょう}を設け、その周囲に住居を巡らせる集落も出現しました。そのような時期に東関東地方には、浮島・興津式土器^{うきしま おきつ}が、西関東地方には諸磯式土器^{もろいそ}が相対峙するように分布していました。

2つの型式は当初よく似ていましたが、次第に違いが大きくなっていき、やがて明確に分布圏が分かれるようになります。

また、土器だけでなく、生活用具や住居の形態なども違くなっていき、浮島・興津式文化圏、諸磯式文化圏とも呼べるような文化圏が形成されるようになります。

このような地域文化が発達した前期後葉の社会は、続く前期末葉になると大きく変わります。遺跡数は減少し、明確な文化圏はなくなり、遠く離れた地域の土器やその影響を受けた土器が多く見られるようになります。そして、それまでは少なかった低地に貝塚が作られる例が増えていきます。

こうした遺物から読み取れる地域文化の発達＝アイデンティティの形成と大きな社会の変化があったことを展示を通して観察してみてください。



【概要】

- ・本展は令和4年度千葉市埋蔵文化財調査センター特別展「遺物から見える地域文化の発達—縄文時代前期後葉～末葉—」のパンフレットである。
- ・本展示会は千葉市教育委員会からの委託を受け、公益財団法人千葉市教育振興財団が担当して実施した。
- ・本展示の期間、会場は以下の通り。
- 令和4年11月23日（水）～令和5年1月22日（日） 千葉市立郷土博物館
- 令和5年2月3日（金）～3月5日（日） 千葉市埋蔵文化財調査センター
- ・パンフレットの作製は公益財団法人千葉市教育振興財団の小林浩、志村陽子が担当した。

【協力機関・協力者（五十音順敬称略）】

柏城市教育委員会、市立市川考古博物館、柏市教育委員会、北原町山博物館、国立歴史民俗博物館、芝山町立芝山古城・はにわ博物館、地ヶ瀬市郷土博物館、茅野市石城考古会館、千葉県教育委員会、千葉大学文学部考古学研究室、安金市教育委員会、成田市教育委員会、ひたちなか市埋蔵文化財調査センター、船橋市郷土資料館、四街道市教育委員会、早稲田大学書庫八一起義博物館、吉木孝一・河部昭典、井出俊、松田健一、松葉理恵、太谷弘幸、榎野希洋、栗原篤子、高橋勇佑、小林清隆、小山根里子、鈴木遼人、田川道、松田郁夫、中村晴作、中村新之助、西川博幸、西原浩吉、和田元太郎、三宅隆、村山昭博、森谷文子、山科哲、須藤正浩



東

第1章 縄文時代前期後葉・末葉を代表する資料



竹管文と貝殻文の盛行

縄文時代前期後葉の土器の特徴はなんといっても竹管文（諸磯式）や貝殻文（浮島式・興津式）と呼ばれる文様です。半分に割った竹のような工具や貝殻を用いて、様々なモチーフの文様が描かれました。ここではその中でも特に優れたものを紹介します。



もろい
諸磯 a 式古
中台貝塚（千葉県市川市中国分）
市立市川考古博物館所蔵

昭和 58 年度の調査で住居跡から貝層とともに出土。
多量の土器が見つかり、全形が分かるものも多いことか
ら、編年の指標として用いられる資料。



おきつ
興津Ⅱ式
上台貝塚（旧東練兵場遺跡・千葉県市川市中国分）
早稲田大学會津八一記念博物館所蔵



なかだい
中台貝塚
（千葉県市川市中国分）
発掘時の様子



中学校の教科書にも掲載された



興津式に特徴的な貝殻文と沈線文で文様が構成される

出土
遺跡

かみだいら
上台貝塚
（旧東練兵場遺跡・千葉県市川市中国分）
小規模な貝層が点在する貝塚。本資料は昭和 32 年
におこなわれた早稲田大学による調査で貝層内から出
土した。



しきつづかいがらもん
刺突貝殻文と呼ばれる手法の出現や、磨消貝殻文と呼ばれる文様の特徴

興津Ⅱ式

興津貝塚（茨城県稲敷郡美浦村）

4 早稲田大学會津八一記念博物館所蔵

出土遺跡

おきつ
興津貝塚（茨城県稲敷郡美浦村）

1957年と1966年に早稲田大学によって発掘調査がおこなわれた。

南北2地点に分かれる斜面貝塚が確認された。出土した土器は縄文時代前期後葉の東関東地方に特徴的な土器として、「興津式」と名付けられた。

浅鉢

縄文時代前期後葉には浅鉢が多く製作され、墓に副葬品として納められました。その中でも優美な浅鉢を紹介します。



5

北白川下層Ⅱc式

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館所蔵

出土遺跡

てらのうち
寺ノ内遺跡（千葉県山武郡芝山町）

高谷川の支流に面する台地上に位置する。土壌墓が密集して見つか、総数49基が調査された。本資料の文様は西日本系の北白川下層Ⅱc式であり、器形は諸磯式であることから、両者が融合したと考えられる。



発掘時の様子



出土
遺跡

なむしゃじんじやまえ

七社神社前遺跡（東京都北区西ヶ原）

東京低地を望む台地上に位置する。縄文時代前期に特徴的な土壇墓が密集し、その周囲に環状に集落が展開することが部分的な発掘調査の蓄積により判明している。土壇墓からはこの時期を特徴づける浅鉢が多数出土した。



北区
指定文化財

もろいそ
諸磯 b 式 (6・7)

北区飛鳥山博物館所蔵



諸磯 b 式

四街道市教育委員会所蔵



中央に土壇墓が密集している

出土
遺跡

きどろき

木戸先遺跡（千葉県四街道市鷹の台）

1990年に発掘調査が実施され、多量の土壇墓群の周囲に住居が展開する、縄文時代前期に特徴的な集落の様相が明らかになった。出土遺物も大量で、この時期を考えるうえで欠かせない遺跡となっている。

土偶・深鉢・鉢

県指定
文化財



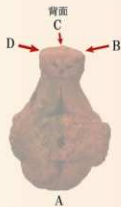
出土
遺跡

鉢ヶ谷遺跡（千葉県東金市小野） 東金市教育委員会蔵

現在の東金インターチェンジ近くにある遺跡。縄文時代中期の土坑から出土した。土坑の底面付近から土偶が1点、ミニチュアの深鉢1点（五領ヶ台Ⅱ式）、鉢が2点まとまった状態で出土。土偶のお腹付近は何かで突いたとおもわれ、器面が荒れている。一緒に出土した鉢の中には白色の塗膜が残っており(11)、同色の液体が入っていたと考えられる。このことから、鉢で土偶のお腹を突く行為がおこなわれたと想定される。これほど隆弁に土偶を用いた儀式の内容を知ることができる資料は大変貴重である。出土した土偶の形は国宝縄文のビーナスに代表される長野方面の土偶とよく似ており、胎土も地元のものと異なるので、交流により持ち込まれた可能性もある。



出土状態



土偶全体像



西関東

東関東

諸磯 a 式古

a 式新

諸磯 b 式古

b 式中

b 式新

諸磯 c 式

浮島 I a 式

浮島 I b 式

浮島 II 式

興津 I 式

興津 II 式

浮島式と諸磯式は成立した当初よく似ていました。しかし、次第に地域色が顕在化し、浮島式・興津式と諸磯式は異なる特徴を有し、明確に分布圏も分かれていくようになります。

ここでは、そのような土器の移り変わりを実物を通して観察してみてください。

※本文中に登場する、()内の数字は資料の番号を示しています。

諸磯 a 式古

諸磯式の前型式である黒浜式に見られた爪形文で描く米字文が消失し、沈線による米字文 (12) や、木葉助骨文 (13) を特徴とする。



木葉助骨文



(13)

諸磯 a 式新

木葉文の出現をもって諸磯 a 式新とされる。



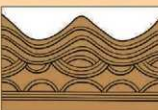
入組木葉文



(14)

諸磯 b 式古

幅広い爪形文や平行沈線で縦手文や弧線文を描くのが特徴。



横位弧線文



(15)

諸磯 b 式中

浮線文 (細い粘土紐を貼り付けて文様を描く) の出現が大きな特徴。渦巻文や縦手文などの文様が見られる。



π 字状縦手文



(16)

出土
遺跡

豆作台遺跡 (千葉県袖ヶ浦市代宿)

東京都千葉福祉園内、標高約 50 ~ 60m を測る台地上に位置する。縄文時代前期後葉の堅穴住居が多く調査され、環状集落に近い集落と考えられる。



13

中台貝塚 (千葉県市川市中国分)
市立市川考古博物館所蔵



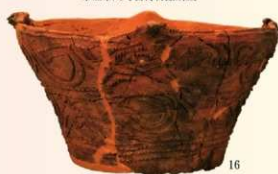
14

文六第 1 遺跡 (千葉県千葉市緑区あすみ丘)
千葉市教育委員会所蔵



15

上台貝塚 (旧東練兵場遺跡・千葉県市川市中国分)
市立市川考古博物館所蔵



16

豆作台遺跡 (千葉県袖ヶ浦市代宿)
袖ヶ浦市郷土博物館所蔵

諸磯 b 式中

爪形文が見られなくなり、浮線文や平行沈線文で文様が描かれる。多重の渦巻文が特徴的。



多重渦巻文



(17)

出土
遺跡

四葉地区遺跡群（東京都板橋区四葉）

荒川に面する台地上に位置する。本資料が出土した大型住居からは大量の土器や石器、貝層が発掘された。



17

四葉地区遺跡群（東京都板橋区四葉）
板橋区教育委員会蔵

諸磯 b 式新段階

浮線文がなくなり、平行沈線文や集合沈線文に限定される。集合沈線文による風車状渦巻文が最大の特徴。



風車状渦巻文



(18)

出土
遺跡

和良比遺跡（千葉県四街道市和良比）

現在の四街道駅近辺に位置し、22,000 m²という広大な面積が調査された。縄文前期後葉の住居も調査され、諸磯式と浮島式・興津式の双方が出土した。



18

和良比遺跡（千葉県四街道市和良比）
四街道市教育委員会蔵

諸磯 c 式

諸磯 c 式は縦位の区画文を最大の特徴とする。展示資料のような貼付文を施すものも特徴的。



19



20

興津貝塚（茨城県稲敷郡美浦村 19・20）
早稲田大学津八一記念博物館蔵



縦位区画文



(19)



21

和良比遺跡（千葉県四街道市和良比）
四街道市教育委員会蔵

浮島Ⅰb式

浮島式は縄文でなく貝殻文が多用されることが大きな特徴。
また、諸磯式にはない凸型変形爪形文と呼ばれる文様や有節平行線文、口縁部が隆帯や低隆起帯になることもある。



低隆起帯



22

上台貝塚（旧東練兵場遺跡・千葉県市川市中国分）
市立市川考古博物館所蔵

浮島Ⅱ式

変形爪形文の幅が広くなることや、変形爪形文以外の文様で工具が使われることが特徴。

また、口唇部には斜めの刻みが施される。



23



24



25



26

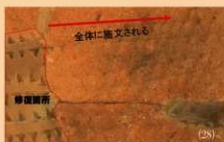
大鵬野南貝塚（千葉県千葉市緑区おゆみ野中央）
千葉市教育委員会所蔵

浮島Ⅲ式

変形爪形文の幅が更に広くなり、口唇部には条線帯と呼ばれる縦の刻みが施される(27)。また、三角文の出現を大きな特徴とする(28)。三角文や変形爪形文だけで器面全体を覆うものもある。



条線帯



三角文



27

豆作台遺跡（千葉県袖ヶ浦市代宿）
袖ヶ浦市郷土博物館所蔵



28

和良比遺跡（千葉県四街道市和良比）
四街道市教育委員会所蔵

興津Ⅰ式

変形爪形文と爪形文が多用されるものや、
平行沈線と爪形文を持つものが特徴。



(29)



29

興津貝塚（茨城県稲敷郡美浦村）
早稲田大学會津八一記念博物館所蔵

興津Ⅱ式

貝殻文と沈線文で曲線的な文様
が描かれるのが特徴。



(30)



30

神門遺跡（千葉県千葉市中央区南生実町）
千葉市教育委員会所蔵

出土
遺跡

神門遺跡（千葉県千葉市中央区南生実町）
千葉市内を流れる浜野川下流に位置する低湿地性の遺跡。
縄文時代前期の貝層が調査され、遺存状態の良い自然遺物も
多数出土した。



貝層の発掘調査の様子

第3章 墓域の形成

縄文時代前期後葉という時代は、居住域と区別された明確な墓域が形成されることでも大きな画期と言えます。

縄文時代前期の集落ではたびたび土壇墓と呼ばれる墓が密集して検出され、墓域を囲むように住居が展開する例があります。土壇墓からは死者に供えた副葬品も見つかり、浅鉢や玉類・石器類が特徴的です。

どこうほ 土壇墓出土の ふくそうひん 副葬品



発掘された土壇墓（北区飛鳥山博物館提供）



31



32



諸磯 a 式



諸磯 b 式



33



34

石匙 (33・34)



35



36

玦状耳飾り (35・36)

七社神社前遺跡（東京都北区西ヶ原）

北区飛鳥山博物館所蔵

北区
指定文化財



37



38

諸磯 a 式 (37・38)

出土
遺跡

飯山満東遺跡 (千葉県船橋市飯山満)

1974 年に発掘調査が実施され、多量の土壌墓群が検出された。このような土壌墓群の検出事例は当時はまだ少なく、性格についても「宗教的遺構」の可能性が推定された。



土壌墓群と土器



空から見た飯山満東遺跡



39



40



41



42



43



44

飯山満東遺跡 (千葉県船橋市飯山満)

国立歴史民俗博物館所蔵

管状垂飾 (39・40・44)

玉類 (41～43) ※43 は球状耳飾再加工

管状垂飾 (39・40・44)



45



46



47

諸磯 b 式 (45～47)

木戸先遺跡 (千葉県四街道市鷹の台)

四街道市教育委員会所蔵

石器と玉類



木戸先遺跡（千葉県四街道市鷹の台） 四街道市教育委員会所蔵

石匙（48～52）管状垂飾（53・54）玉類（55～62）
※55・62は球状耳飾再加工



玉類（63～66）

管状垂飾（67）



出土
遺跡

文六第1遺跡

（千葉県千葉市緑区あすみが丘）
千葉市教育委員会所蔵

昭和54年～61年にかけて、現在の土気の町を造る際に調査された。縄文時代前期の住居跡や早期～前期にかけての大量の陥穴や石跡が見つかり、縄文時代のハンターが行き交った場所と考えられる。

明確な土壌層はないが、この玉類も副葬品として用いられた可能性がある。



空から見た大膳野南貝塚

管状垂飾の装着方法



68

大膳野南貝塚
（千葉県千葉市緑区おゆみ野中央）
千葉市教育委員会所蔵

管状垂飾の孔を観察すると孔の径がより広がっている箇所があることが分かります。これは紐にぶら下げ続けた結果、擦れてできた痕跡と考えられます。この痕跡から管状垂飾は縦ではなく、横方向に紐でぶら下げていたことが分かります。



管状垂飾装着イメージ



孔の拡大写真

出土
遺跡

大膳野南貝塚（千葉県千葉市緑区おゆみ野中央）
千葉市教育委員会所蔵

千葉市と市原市の境を流れる村田川の支流に位置し、現在ケーズデンキが建っている。

遺跡の主体となるのは縄文時代後期の貝塚だが、縄文時代前期の土坑群と住居跡が調査された。

第4章 獣面把手

じゅうめんとして

縄文土器の口縁部付近に獣類の顔を表現したものを獣面把手と呼びます。これらは主にイノシシの造形が多く、縄文時代前期後葉の中でも特に諸磯b式期に盛んに製作されるものです。

また、土器に貼り付けられたものだけでなく、タブレット状に加工され、それ自体が意味のあるものとして流通していました(下の写真参照)。これらのことから、縄文人はイノシシに対して特別な気持ちを持っていたことが分かります。

木戸先遺跡(千葉県四街道市鷹の台)(69～71)
四街道市教育委員会蔵



群馬県安中市中野谷松原遺跡のイノシシ形土製品

出土
遺跡

草刈遺跡F区
(千葉県市原市ちはら台西・東・南)(72～75)
千葉県教育委員会蔵

縄文時代～近世にいたるまでの巨大な遺跡が丸ごと発掘された。
縄文時代前期後葉の資料は決して多くはないが、土器や獣面把手が出土している。



76

出土
遺跡

太田法師遺跡
(千葉県千葉市緑区おゆみ野南)
千葉県教育委員会蔵

縄文時代前期の包含層から出土した。
目が二対表現された立体的な造形は群馬県方面に多く、搬入されたものの可能性がある。



77

豆作台遺跡(千葉県袖ヶ浦市代宿)
袖ヶ浦市郷土博物館蔵

笑うイノシシ

第5章 東西の違いを示す資料

鉢の形

諸磯b式



79



78

七社神社前遺跡（東京都北区西ヶ原）
北区飛鳥山博物館所蔵

北区
指定文化財

浮島式



80



81

木戸先遺跡（千葉県四街道市鷹の台）
四街道市教育委員会所蔵

浮島式・興津式と諸磯式では鉢の形が違う

縄文時代前期後葉は、浅鉢という器種が安定的にみられるようになる点でも大きな画期ですが、浮島式・興津式、諸磯式の浅鉢はそれぞれ特徴が異なります。

諸磯式の浅鉢は、展示品のように形のバリエーションを多様にしていくことが特徴で、口縁部が強く内湾したり、なかには UFO のような形になるものもあります (78・79)。

一方で、浮島式・興津式の浅鉢は形にはバリエーションがあまりなく、シンプルな見た目をしています。しかし、文様の施文が緻密であったり、器壁を非常に薄く作る精緻な浅鉢が多いことが特徴です (80・81)。

諸磯式は形のバリエーションを増やすのが特徴で、浮島式・興津式は製作技法が洗練化されていたのが特徴と言えます。

第5章 東西の違いを示す資料

(けつじょうみかざり)

玦状耳飾



82

太田法師遺跡
(千葉県千葉市緑区おゆみ野南)
千葉県教育委員会蔵



83

バクチ穴遺跡
(千葉県千葉市緑区おゆみ野南)
千葉県教育委員会蔵



84



85

文六第1遺跡
(千葉県千葉市緑区あすみが丘)
千葉市教育委員会蔵

86



87

南羽島中嶋第1遺跡
(千葉県成田市南羽島)
成田市教育委員会蔵



88

大鵬野南貝塚
(千葉県千葉市緑区おゆみ野中央)
千葉市教育委員会蔵



89



玦状耳飾りの装着イメージ

出土
遺跡

バクチ穴遺跡

(千葉県千葉市緑区おゆみ野南)

千葉市と市原市の境を流れる村田川の支流に位置する。すぐ隣には大鵬野南貝塚があり、一体の遺跡と考えられる。

出土
遺跡

南羽島中嶋第1遺跡

(千葉県成田市南羽島)

成田市中心を流れる根木名川の支流である十日川に面する台地上に位置する。平成3～6年にかけて断続的に調査された。遺跡からは各時代の遺構・遺物が出土したが、特に縄文時代前期後葉の土壇墓群が目される。その数推定250基と考えられ、中でも2号土坑からはとてもインパクトのある人頭形土製品(1)が出土した。

特徴1

西関東は石で作られた耳飾りが多い

※展示品は東関東で出土した石製耳飾

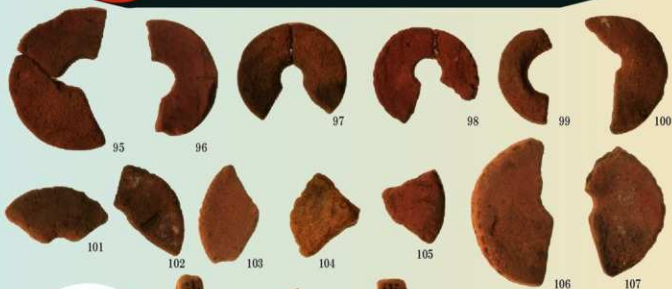
耳飾りの素材と形が違う

縄文時代前期後葉に特徴的にみられる装身具の一種に玦状耳飾と呼ばれる耳飾りがあります。中国殷周時代の「玦」に似ていることからこの名前がつけられました。蛇紋岩や滑石を用いて環状に研磨し、下端に切れ込みを入れます。孔をあけた耳たぶに切れ込みを通して、上端でぶら下げます。

この玦状耳飾りにも地域によって違いがあります。関東地方西部の諸磯式文化圏は石で作られたものが多いことが特徴です。一方で、関東地方東部の浮島式・興津式文化圏は、土で作られたものがメインです。また、土製耳飾りの中でも、千葉県・茨城県域は側面に刺突などで文様を施したり、断面が扁平なことが特徴です。多摩方面に多い土製耳飾は、断面が扁平に整形されず、丸みを帯びています。そして、縄文時代前期末葉になると、平面形がコの字になるものが目立つようになります。



特徴2 西関東では土裂が少なく、多摩周辺では土で作られて断面が丸いものが多い



(90～112) 和良比遺跡(千葉県四街道市和良比) 四街道市教育委員会蔵



(113～117) 大膳野南貝塚(千葉県千葉市緑区おひみ野中央) 千葉市教育委員会蔵



(118～122) 文六第1遺跡(千葉県千葉市緑区あすみが丘) 千葉市教育委員会蔵

特徴3 東関東は土裂が多く、断面が平らで側面に刺突を施すものが多い

土製

第5章 東西の違いを示す資料

せきさいぎほう

赤彩技法



123



124

浮島・興津式は赤彩の残りがよく、鮮やか

遠原貝塚（茨城県ひたちなか市金上）

ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所蔵



125



126

諸磯式は赤彩されるが、はがれて残りにくい

七社神社前遺跡（東京都北区西ヶ原）

北区飛鳥山博物館所蔵

北区
指定文化財

出土
遺跡

遠原貝塚（茨城県ひたちなか市金上）

茨城県北部の那珂川と中丸川の間にある三反田丘陵と呼ばれる台地上に位置する。遺跡は傾斜地に位置し、小規模な地点貝塚で構成されている。

浅鉢の彩色順序が違う

縄文時代前期後葉を代表する浮島式・興津式、諸磯式の浅鉢には形だけではなく彩色の方法にも違いがあります。浮島式・興津式の浅鉢はベンガラにより土器を焼成する前に塗彩されるので、顔料が器面に密着し塗彩の残りが非常に良いのが特徴です（123・124）。また、この技法は西日本の北白川下層式にもみられるものです。

一方で諸磯式は漆状の塗膜が器面に残るものがあることから、焼成後に赤色顔料を漆に混ぜ塗彩していたと考えられます（125・126）。このように、両者の浅鉢は形だけでなく塗彩の技術も異なっていました。

千葉市が位置する房総半島は、縄文時代に限らず各時代において地理的に近い東北地方南部の影響を色濃く受ける地域です。しかし、海を利用した水上交通により西日本の影響が一定程度みられることも房総半島を特徴づけています。

西日本との交流

北白川下層Ⅱc 式

京都府京都市北白川小倉町遺跡が標式となっている土器型式で、関西地方を中心に分布しています。器壁が非常に薄いことが特徴で、幅の狭い竹管状の工具を用いた深い爪形文が多用されます。

また、北白川下層Ⅱc 式は凸帯文が施されることが大きな特徴となります。



有吉北貝塚
(千葉県千葉市緑区おゆみ野中央)
千葉県教育委員会所蔵

バクチ穴遺跡
(千葉県千葉市緑区おゆみ野南)
千葉県教育委員会所蔵

出土
遺跡

有吉北貝塚
(千葉県千葉市緑区おゆみ野中央)

縄文時代中期の大型貝塚として知られていますが、縄文時代前期後葉の遺物も出土している。



文六第1遺跡
(千葉県千葉市緑区あすみが丘)
千葉市教育委員会所蔵



大膳野南貝塚
(千葉県千葉市緑区おゆみ野中央)
千葉市教育委員会所蔵

北白川下層Ⅱc式に特徴的な凸帯文は関東地方西部の諸磯式の影響を取り入れて完成しましたが、その後は北白川下層Ⅱc式の凸帯文が諸磯式に影響を与え、諸磯Ⅱ式に特徴的な浮線文が生まれたと考えられています。このように、分布の異なる北白川下層式と諸磯式の間には相互に土器に関する情報の往来があったことが分かります。



豆作台遺跡
(千葉県袖ヶ浦市代宿)
袖ヶ浦市郷土博物館所蔵

大木式

宮城県宮城郡七ヶ浜町に位置する大木冨貝塚を発掘した山内清男により命名された土器型式です。

縄文時代前期～中期の土器型式で、今回展示した縄文時代前期後葉～末葉は大木 2b～6 式が該当します。地文に縄文が目立ち、口縁部に横位に区画された文様を施し、そこから縦位に懸垂文様を施すという文様構成が特徴的です。木戸先遺跡例は大木3式ですが、その他は大木5～6式と考えられ、福島方面の土器に類似します。しかし、大木式そのものと言えない資料も多く、東北の影響を受けて房総半島で生まれたものもあるかもしれません。

東北地方との交流



西の台遺跡 (160・161)
(千葉県船橋市二和町)
船橋市郷土資料館所蔵



160(5点は同一個体)



161



162



163

出土
遺跡

西の台遺跡 (千葉県船橋市二和町)

昭和 57～58 年度にかけて調査された。明確な居住域は調査されなかったが、浮島式を中心に土器が多く出土した。飯山満東遺跡も近辺にあり、周囲は前期の遺跡が比較的集中する。

和良比遺跡 (千葉県四街道市和良比) 四街道市教育委員会所蔵



木戸先遺跡
(千葉県四街道市鷹の台)
四街道市教育委員会所蔵



164



165



166



167



168

文六第1遺跡
(千葉県千葉市緑区あすみが丘)
千葉市教育委員会所蔵

おしだしがた 押出型ポイント

山形県東置賜郡高島町にある、押出遺跡を基準としているのでこの名前があります。細長く、基部に狭い口（くち）を作ることが特徴的な石器です。同じ形をした石器が関東地方などでも見ることができ、東北地方との交流を示す遺物と考えられています。

出土
遺跡

ついでに
鶴居西原遺跡（千葉県柏市柳戸）

手賀沼から程近い台地上に位置する。遺跡の詳細は明らかではないが、押出型ポイントが1点出土した。



169



170

鶴居西原遺跡（千葉県柏市柳戸）
柏市教育委員会所蔵

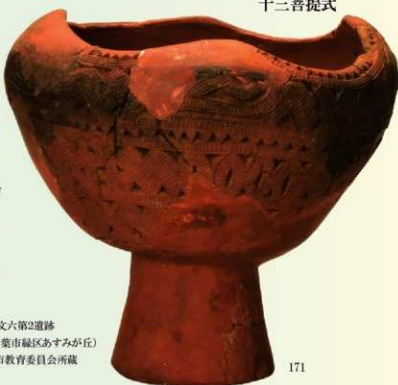
遠原貝塚（茨城県ひたちなか市金上）
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所蔵

縄文時代前期末葉は浮島式・興津式文化圏、諸磯式文化圏というように文化圏が分かれ、文化のアイデンティティが花開きましたが、前期末葉になると大きく変わっていきます。

明確な文化圏はなくなり、遠隔地との交流の結果もたらされたと考えられる土器などが点々と分布する、非常に流動的な社会となっていきます。

房総半島からも関東地方西部や中部高地方面から持ち込まれたと考えられる十三菩提式が見つっています。

十三菩提式



文六第2遺跡
(千葉県千葉市緑区あすみが丘)
千葉市教育委員会蔵

171



東山王貝塚
(千葉県市川市曾谷)
市立市川考古博物館蔵

出土
遺跡

東山王貝塚 (千葉県市川市曾谷)
標高 10m 前後の低い段丘上に立地する低地性の貝塚。
国指定史跡曾谷貝塚から程近い場所にある。

172



173

174

175

出土
遺跡

住吉遺跡
(千葉県千葉市緑区小食土町)
現在の千葉市昭和の森に所在する遺跡。
数は多くないが、縄文時代前期末葉の土器
が見つっている。

住吉遺跡
(千葉県千葉市緑区小食土町)
千葉市教育委員会蔵



出野尾洞穴
(千葉県館山市出野尾)
千葉大学文学部考古学研究室所蔵

出土
遺跡

出野尾洞穴 (千葉県館山市出野尾)

海食洞穴と呼ばれる。波の侵食により形成された洞穴の中が遺跡になっていた。房総半島南部や三浦半島にはこのような洞穴が多数形成され、縄文時代以来人々の生活の痕跡が残されてきた。時には狩猟のためのキャンプサイトのような場所として、時には墓域となっていたこともあった。



海食洞穴の調査風景



出野尾洞穴
(千葉県館山市出野尾)
千葉大学文学部考古学研究室所蔵

下小野式系

関東地方北西部や中部高地方面の十三菩提式と同時期に作られた地元の土器を下小野式系などと呼称します。

結節文と呼ばれる縄文の結び目を器面に転がした、比較的シンプルな文様が特徴的です。



結節文



高風呂遺跡
(長野県茅野市北山)
茅野市尖石縄文考古館所蔵

出土
遺跡

高風呂遺跡 (長野県茅野市北山)

霧ヶ峰山麓の南東部分を占めるカシガリ(標高1616.4m)山の南斜面部に位置する。遠く離れた長野県茅野市出土の十三菩提式だが、千葉市出土の十三菩提式と文様の構成や作りがとても良く似ている。

土器の製作技術を復元する



文六第二遺跡出土の十三菩提式土器を、千葉市埋蔵文化財調査センター研究員である戸村正己氏が復元製作しました。

復元製作をすることで、どのような道具でどのような手順・体勢で縄文時代の人々が土器を製作したか迫ることができる。実際に復元製作をしてみると、文様を付ける順番などを熟知していないと、同じように製作することは大変難しいことが見えてきました。

このように、房総半島で見つかる十三菩提式は他地域から直接持ち込まれたか、製作技術を熟知した人が移動して来て作った可能性が考えられます。



器面に施された「三角の陰刻文様」の観察から、切り取り面のシャープさが際立って見られた。切り損じのないその状態から、工具（ヘラ）を想定作成し、切り取り施文を行なった結果、332個の「三角錐状のチップ」が手許に出現した。当時においても、土器製作の副産物として同様の現象が見られたに違いない。

- 製作を通じての戸村のつぶやき -

戸村正己 プロフィール

1954年千葉県山武郡芝山町生まれ

小学校4年生の時に縄文土器を拾い、数千年も昔の土器が掌の上にあることの不思議さに感動し、以後縄文の虜になる。

高校2年生の時に千葉県加賀利貝塚博物館で今日の土器製作活動の草分けである新井司郎氏と出会い土器製作の手ほどきを受ける。

新井氏の逝去以後、師の意思を引き継ぐ思いで独自の土器作り活動を展開。今日に至る。

令和4年度特別展 遺物から見える地域文化の発達—縄文時代前期後葉〜末葉—
出展資料一覧

番号	遺跡名	種類	所蔵先
縄文時代前期後葉〜末葉を代表する資料			
1	南羽島中嶋第1遺跡	人頭形土製品（レプリカ） 千葉市埋蔵文化財調査センターのみ展示	成田市教育委員会
2	中台貝塚	諸磯a式古（深鉢）	市立市川考古博物館
3	上台貝塚	興津Ⅱ式（深鉢）	早稲田大学津八一記念博物館
4	興津貝塚	興津Ⅱ式（深鉢）	早稲田大学津八一記念博物館
5	寺ノ内遺跡	北白川下層Ⅱc式（鉢）	芝山町芝山古墳・はにわ博物館
6・7	七社神社前遺跡	諸磯b式（鉢）	北区飛鳥山博物館
8	木戸先遺跡	諸磯b式（鉢）	四街道市教育委員会
9〜12	鉢ヶ谷遺跡	土偶・五輪ヶ台Ⅱ式（深鉢ほか）	東金市教育委員会
土器の地域色の顕在化—浮島式・興津式と諸磯式—			
13	中台貝塚	諸磯a式古（深鉢）	市立市川考古博物館
14	文六第1遺跡	諸磯a式新（深鉢）	千葉市教育委員会
15	上台貝塚	諸磯b式古orⅠ（深鉢）	市立市川考古博物館
16	豆作台遺跡	諸磯b式中（深鉢）	袖ヶ浦市郷土博物館
17	西栗地区遺跡群	諸磯b式中（深鉢）	板橋区教育委員会
18	和良比遺跡	諸磯b式新（深鉢）	四街道市教育委員会
19・20	興津貝塚	諸磯c式（深鉢）	早稲田大学津八一記念博物館
21	和良比遺跡	諸磯c式（深鉢）	四街道市教育委員会
22	上台貝塚	浮島Ⅰb式（深鉢）	市立市川考古博物館
23〜26	大鰐野南貝塚	浮島Ⅱ式（深鉢）	千葉市教育委員会
27	豆作台遺跡	浮島Ⅲ式（深鉢）	袖ヶ浦市郷土博物館
28	和良比遺跡	浮島Ⅲ式（深鉢）	四街道市教育委員会
29	興津貝塚	興津Ⅰ式（深鉢）	早稲田大学津八一記念博物館
30	神門遺跡	興津Ⅱ式（深鉢）	千葉市教育委員会
墓域の形成			
31・32	七社神社前遺跡	諸磯式a・b式（鉢）	北区飛鳥山博物館
33〜36		石庭・床状耳飾	
37・38	飯山満東遺跡	諸磯a式（鉢）	国立歴史民俗博物館
39〜44		玉類	
45〜47	木戸先遺跡	諸磯b式（鉢）	四街道市教育委員会
48〜62		玉類・石器	
63〜67	文六第1遺跡	玉類	千葉市教育委員会
68	大鰐野南貝塚	管状垂飾	千葉市教育委員会
獣歯把手			
69〜71	木戸先遺跡	獣歯把手（諸磯b式）	四街道市教育委員会
72〜75	草刈遺跡F区	獣歯把手（諸磯b式）	千葉県教育委員会
76	太田法師遺跡	獣歯把手（諸磯b式）	千葉県教育委員会
77	豆作台遺跡	獣歯把手（諸磯b式）	袖ヶ浦市郷土博物館
東西の違いを示す資料 鉢の形			
78・79	七社神社前遺跡	諸磯b式（鉢）	北区飛鳥山博物館
80・81	木戸先遺跡	浮島式（鉢）	四街道市教育委員会
東西の違いを示す資料 床状耳飾			
82	太田法師遺跡	石製耳飾	千葉県教育委員会
83・84	バクチ穴遺跡	石製耳飾	千葉県教育委員会
85・86・118〜122	文六第1遺跡	石製・土製耳飾	千葉市教育委員会
87	南羽島中嶋第1遺跡	石製耳飾	成田市教育委員会
88・89・113〜117	大鰐野南貝塚	石製・土製耳飾	千葉市教育委員会
90〜112	和良比遺跡	土製耳飾	四街道市教育委員会
東西の違いを示す資料 赤彩技法			
123・124	遠原貝塚	浮島Ⅲ式	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
125・126	七社神社前遺跡	諸磯b式	北区飛鳥山博物館
遠い地域との交流 西日本との交流 東北地方との交流			
127・128	有吉北貝塚	北白川下層Ⅱc式	千葉県教育委員会
129・130	バクチ穴遺跡	北白川下層Ⅱc式	千葉県教育委員会
131〜140	文六第1遺跡	北白川下層Ⅱc式	千葉市教育委員会
141〜149	大鰐野南貝塚	北白川下層Ⅱb・c式	
150〜159	豆作台遺跡	北白川下層Ⅱc式	袖ヶ浦市郷土博物館
160・161	西の台遺跡	太木5〜6式	船橋市郷土資料館
162・163	和良比遺跡	太木5〜6式	
164	木戸先遺跡	太木式3式	四街道市教育委員会
165〜168	文六第1遺跡	太木式5〜6式	千葉市教育委員会
169	鶴岡西原遺跡	押出型ポイント	柏市教育委員会
170	遠原貝塚	押出型ポイント	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター
変わる社会—縄文時代前期末葉—			
171	文六第2遺跡	十三音模式（深鉢）	千葉市教育委員会
172	東山王貝塚	十三音模式（深鉢）	市立市川考古博物館
173〜175	住吉遺跡	十三音模式（深鉢）	千葉市教育委員会
176〜180	出野尾洞穴	十三音模式（深鉢）	千葉大学文学部考古学研究室
181	出野尾洞穴	下小野式系（深鉢）	千葉大学文学部考古学研究室
182	高尾呂南遺跡	十三音模式（深鉢）	茅野市史前考古館
土器の復元製作			
183	文六第2遺跡	十三音模式（深鉢）	戸村正己氏による復元

【参考文献】安中市ふるさと学習館編2003『エトーンロード—縄文時代の黒曜石交易—』安中市ふるさと学習館
五味文彦ほか2011『新しい社会 歴史』東京書籍株式会社
松田光太郎2020『縄文時代前期の広域土器輸送とその展開—諸磯式土器を中心として—』六六書房



【発行】公益財団法人 千葉市教育振興財団

〒260-0045 千葉県千葉市中央区神大3丁目7番7号 TEL:043-256-7771

【印刷】株式会社 弘報社

〒266-0028 千葉県緑区古市場町 474-208

発行日 2022 年 11 月 22 日